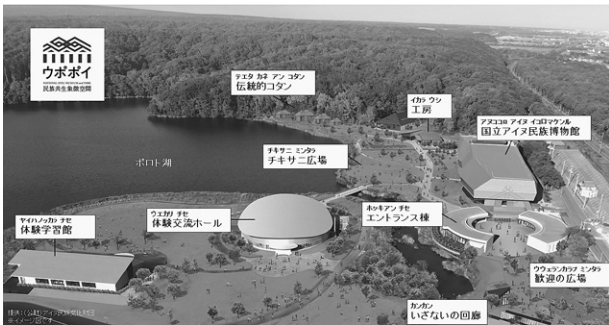


－北海道開発局－

## ウポポイ（民族共生象徴空間）がオープン！

### 1. はじめに

7月12日、北海道白老町に「ウポポイ（民族共生象徴空間）」がオープンした。「ウポポイ」とは、アイヌ語で「（おおぜいで）歌うこと」を意味し、先住民族であるアイヌの文化を復興・発展させる拠点として、また、先住民族の尊厳を尊重し差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として、ポロト湖畔に整備された。ウポポイの中核区域は「国立アイヌ民族博物館」と「国立民族共生公園」から構成されており、主要施設の建設工事は国土交通省北海道開発局が行った。アイヌ文化を五感で体感できるウポポイについて紹介したい。



ウポポイ全景

### 2. 工夫を凝らした施設

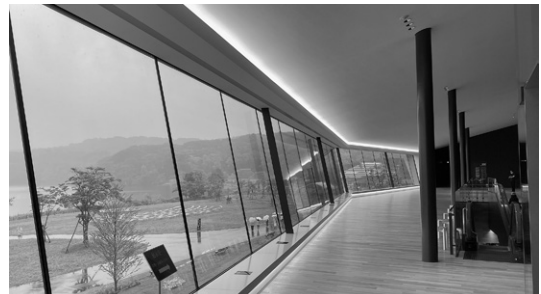
ウポポイの入口として来場者を迎えるのが「いざないの回廊」である。ウポポイの奥行きを感じさせるために、先が見通せないよう高さ3mのコンクリートの壁で視界を制限し、壁の周辺に樹木を配置し、木漏れ日の中を通る雰囲気演出している。

コンクリートの壁面には、遅延材をプリントしたシートをプレキャストコンクリート表面に被せ、のちに洗い出しをすることで詳細なグラフィック表現が可能な「グラフィックコンクリート仕上げ」を採用し、木々や動物を描いて豊かな自然環境を表現した。また、歩き進めることで、川の音や鳥の声、アイヌの代表的な楽器であるムックリやトンコリの音色が次々と聞こえ、視覚と聴覚で自然とともに暮らしてきたアイヌ文化を感じることができる。



いざないの回廊

ウポポイ内で最も大きい施設が、北日本初の国立博物館「国立アイヌ民族博物館」である。建物の形状はポロト湖畔に広がる山並みと緩やかに連続しており、周辺の豊かな自然と調和するよう設計されている。展示室へ向かう途中にはウポポイ全体を見渡せるパノラミックロビーがあり、長さ約50mのガラススクリーンから美しい景色を楽しむことができる。基本展示は、アイヌ民族の視点で「私たち」という切り口で語る構成で、解説や表示にはアイヌ語が第1言語として使われているのが特徴である。



国立アイヌ民族博物館のパノラミックロビー

また、ポロト湖や周辺の山並みと呼応する柔らかなシルエットの円形デザインを特徴とする建物が、「体験交流ホール」である。ユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」などを上演する施設であり、大人数で踊れるよう広い半円形ステージを設け、ステージとそれを取り囲む客席は床に段差がない空間でつながり、演者と観客の一体感を醸成している。ステージの背面にはポロト湖や対岸の伝統的コタンを望むことができる借景窓（幅9m、高さ5m、ガラス固定）を設置。ホールに居ながらにして、豊かな自然の中でアイヌの伝統芸能を見ているような感覚が味わえる。



体験交流ホールの借景窓

### 3. アイヌの巧みな「技」

ウポポイでは、古くから伝承されてきたアイヌの「技」も数多く見ることができる。

アイヌの伝統的な生活空間を体感することができるエリアである「伝統的コタン」には、茅葺き屋根で作られた「チセ」（アイヌ語で「家屋」の意）が建ち並んでいる。遠くから見るとどのチセも同じように見えるが、伝統的な工法・建材を用いて建てられたチセと、内部に入れるよう建築基準法に基づき建てられたチセがある。前者は中に入ることはできないが、壁や屋根を間近で見ると綺麗に揃えられた茅の多さに圧倒される。後者は中に入って見学することができ、チセでの暮らしについて解説を聞くなどアイヌの文化や伝統に触れることができる。



伝統的コタンに建ち並ぶ「チセ」

さらに、オープン後に建築を始めたチセもある。これは、建築技術の伝承をしながら一般にも伝統的な技法でのチセ作りを公開するプログラムで、普段は見られない柱や内部、茅葺き屋根を作る様子などを間近で見ることができるのも興味深い（10月頃に完成予定）。

チセの近くで行われる「丸木舟操舟実演・解説」プログラムでは、漁や交通、運搬の手段として使われていた丸木舟について知ることができる。このプログラムで使用している丸木舟は6mと7.5mのものがあり、ウポポイのスタッフがそれぞれ約1か月かけて製作したものである。刃物で仕上げられた表面の滑らかさにも、ぜひ注目してほしい。



丸木舟操舟実演と製作の様子

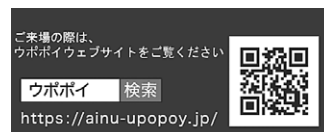
この他、アイヌの男性の手仕事である木彫や、女性の手仕事である刺繍・織物の実演も行われており、長く受け継がれてきた巧みな技やアイヌ文様の美しさを間近で見ることができるのも魅力である。



木彫・刺繍実演の様子

### 4. おわりに

ウポポイでは、アイヌ古式舞踊の上演や伝統楽器の演奏鑑賞など、アイヌ文化が体感できる様々なプログラムが用意されている。また、レストランやフードコートでアイヌ文化由来の食材を使用した料理を楽しんだり、ショップでアイヌ文様入りのお土産品などを買ったりすることもでき、どんな年代でも楽しめる施設となっている。多彩な魅力にあふれているウポポイで、ぜひアイヌ文化に触れていただきたい。



国土交通省 北海道開発局 開発監理部  
アイヌ施策推進課 菅原 明日